

経営比較分析表（令和4年度決算）

静岡県 富士宮市

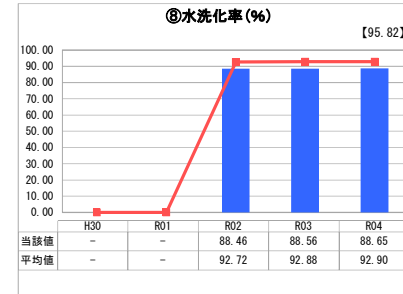
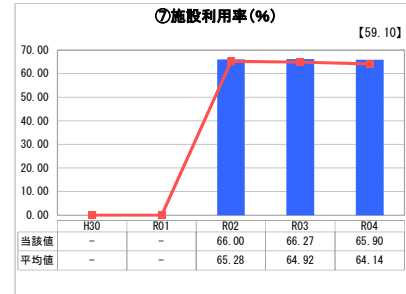
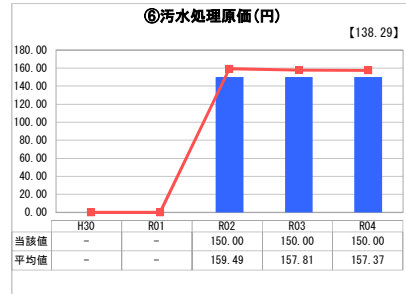
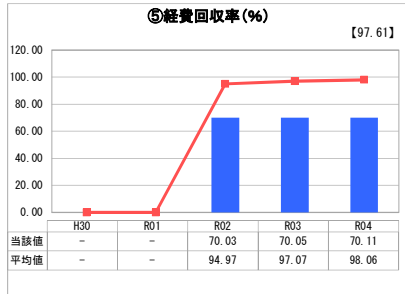
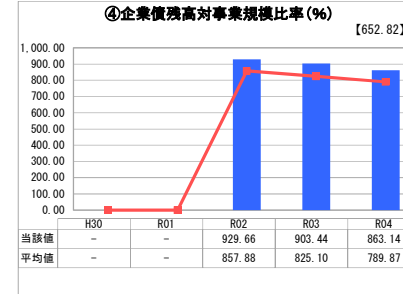
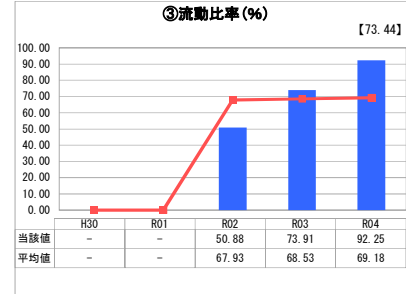
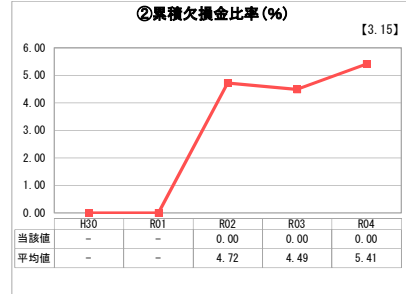
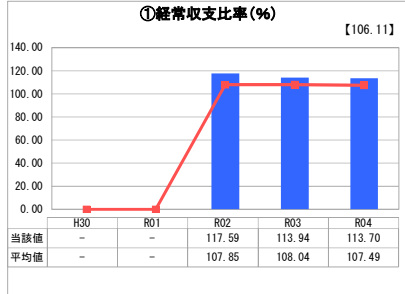
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	73.63	54.35	71.48	1,947

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
129,250	389.08	332.19
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
69,952	15.02	4,657.26

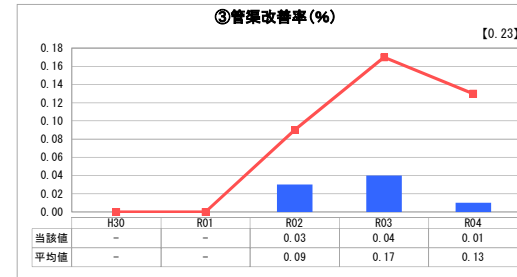
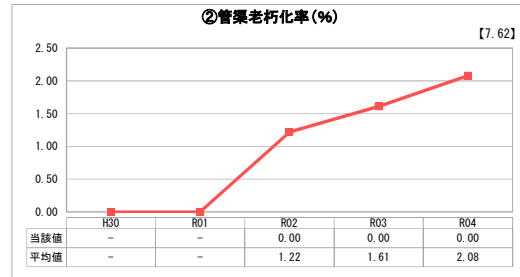
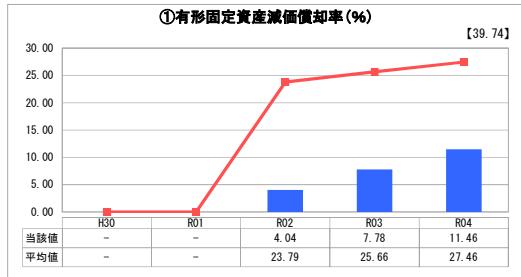
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率
100%を上回っており良好ですが、経費回収率が低く、使用料以外の収入に依存している部分が大いため、費用削減と使用料収入の増加に努める必要があります。

② 累積欠損金比率
現金預金の増加と流動負債における企業債償還金が減少しているため、改善しています。

③ 流動比率
現金預金の増加と流動負債における企業債償還金が減少しているため、改善しています。

④ 企業債残高対事業規模比率
類似団体平均および全国平均より高い数値ですが、企業債残高の減少と今後の投資規模から見て、下がる見込みです。

⑤ 経費回収率
100%を下回っており、不足分は一般会計からの繰入金で補っているため、適正な使用料の確保と汚水処理費削減に取り組む必要があります。

⑥ 汚水処理原価
類似団体平均と比べて低い数値にあり、良好な状態です。引き続き、汚水処理費の削減に努めます。

⑦ 施設利用率
類似団体平均と同等の数値です。将来の人口減少を踏まえて施設規模を検討していく必要があります。

⑧ 水洗化率
類似団体平均に比べて低く、水質保全と使用料収入の増加を図るため、戸別訪問の強化と一層の普及促進のための啓発活動に努めていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
令和2年度より地方公営企業法を適用したことから、類似団体平均及び全国平均より低い数値となっていますが、今後は増加していく見込みです。

② 管渠老朽化比率
供用開始からの経過年数が40年であり、法定耐用年数を経過した管渠がないことから低い数値ですが、今後、更新時期を迎える管渠が増加することから計画的な改築更新を実施していく予定です。

③ 管渠改善率
法定耐用年数を経過した管渠がなく改善率は低いです。今後は下水道ストックマネジメント計画に基づく修繕改築計画を策定し、優先度に応じた改築を実施していく予定です。

全体総括

富士宮市では昭和45年から公共下水道事業に着手、昭和57年に供用開始し、管渠延長は約322kmに達しています。

今後、人口減少等による下水道使用料収入の減少が見込まれるため、経営戦略に基づき、施設の維持管理経費の削減に努め、適正な使用料収入の確保のために水洗化率の向上に取り組む必要があります。また今後、下水道施設の老朽化対策の費用が増加するため、各施設の改築計画を策定し、効率的に改築更新を実施していく予定です。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。